



↑生徒代表のことはを話す生徒会副会長の西悠里さん



↑4階建ての伊万里中学校新校舎

伊万里中学校
改築事業落成式

3月21日、伊万里中学校で改築事業落成式がありました。

この改築事業は、令和元年度から校舎などの改修工事を年次的に行い、この3月にすべての事業が完了しました。

落成式には、伊万里中学校の生徒や工事関係者など多くの人たちが参加。参加者は、口々に喜びや感謝の気持ちを伝え合い校舎の完成を祝うなど、祝福ムードに包まれた春の良き1日になりました。

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No.270

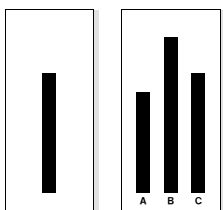
このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23・3186

心のなかの「同調」意識を考える

私たちは周囲の意見に影響を受ける傾向にあります。本やテレビ、インターネットなどの情報に感化されて行動することも珍しくありません。このように、暗黙のうちに周りと同じような考え方や行動を誘導する心理のことを『同調圧力』と言いますが、このことについて検証した、アメリカの社会心理学者ソロモン・アッシュの心理実験を紹介します。

この実験は、長さの異なる3本の線の中から、基準線と同じものを選択するという単純明快なもので、あらかじめ不正解の回答をするように指示を受けた多数の被験者の中に、一人だけ加えて行われました。



↑アッシュの実験で使われた2枚のカード

その結果、驚くべきことに、仕組みまれた不正解の回答が続くと本当の被験者も同調し、正解がわかっていいるにもかかわらず不正解の回答をする傾向が確認されたというのです。日常生活の中では、自分の意見を抑えて他人に同調せざるをえない状況も多く、悩むこともしばしばです。空気を讀んだり、周りに配慮したりすることが日本人の美学なのかもしれません。優しさや思いやりの一つの表現なのかもしれません。ですが「みんなが言っているから」「昔から言われているから」という周囲の声に流されてしまうことは『偏見や差別の芽』が心の中に巣食うことを助長することにもつながりかねません。

一人一人が持っている『人権感覚』という心のモノサシを見つめ直し、言葉や行動に移すことが大切です。ささやかな取り組みかもしれませんが、住みやすく明るい社会を築く第一歩になるはずですよ。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

史跡大川内鍋島窯跡調査事業

日峯社下窯跡の調査成果⑬

約1年間にわたって日峯社下窯跡の調査成果を紹介してきましたが、最後に調査によつて分かったことをまとめで紹介します。

①窯跡は、全長（水平距離）が約52㍎あり、焼成室数は15室ありました。

②この窯跡では安価な大量生産品の碗の焼成とともに、焼成に一番適した窯の中央付近の焼成室で初期の鍋島焼を焼成していました。

③窯と物原（失敗品の廃棄場所）の間に、他の窯跡では見られない広い空間地がありました。現時点で、この空間地の目的や、建物の有無などは明確ではありませんが、この窯跡の特殊性を示すものと考えられます。

④焼成に失敗した鍋島焼は、藩主から「物原に捨てないように」との命令が出され



↑発掘調査の様子

ていましたが、日峯社下窯跡では物原に捨てられていました。しかし、意匠が外部に漏れないように意図的に小さく割られ、広範囲に廃棄されていました。3月には空間地の用途を確認するため小規模な発掘調査を行いました。手掛かりは得られませんでした。今後調査を続け、窯跡の構造や配置、初期の鍋島焼の歴史的価値の解明を進める予定です。